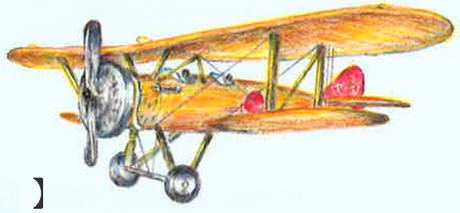


【　谷田部海軍航空基地　】

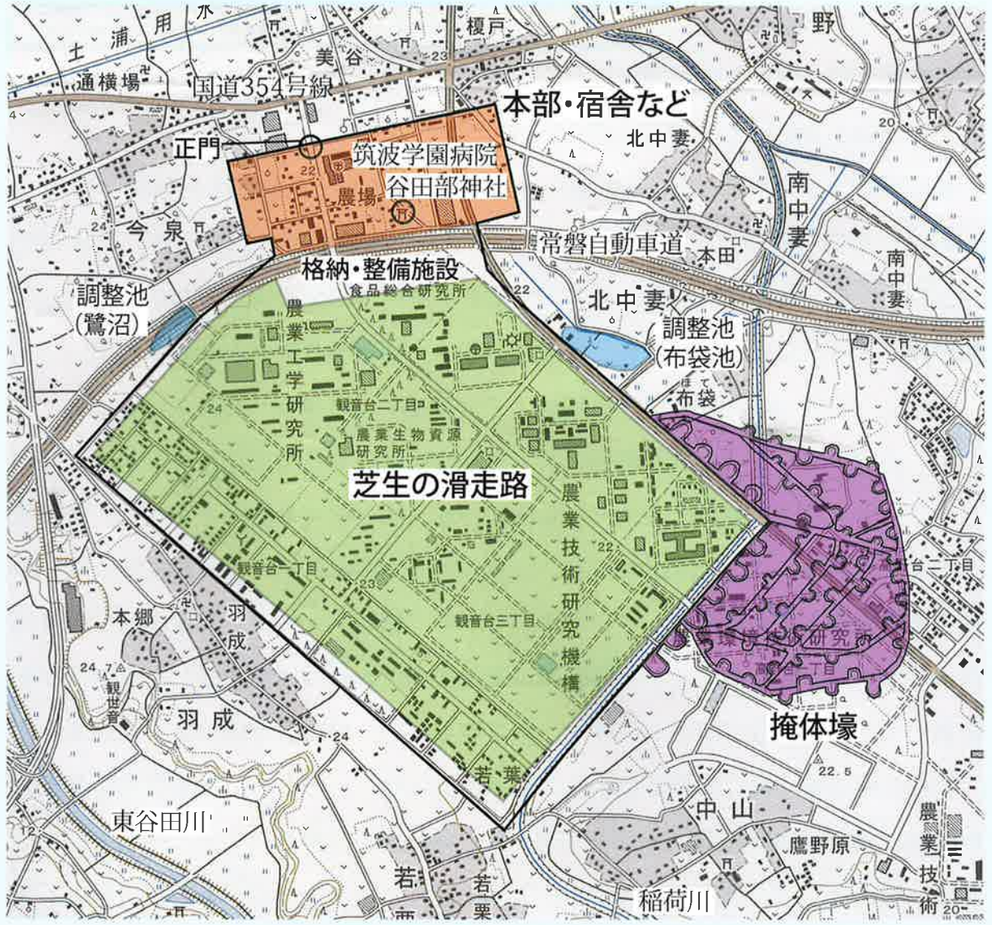
初めて戦争で飛行機が使われた第一次世界大戦以降，日本でも重要な兵器として飛行機が造られるようになり，本格的に航空隊が組織されるようになります。茨城県では，1920年（大正９），現在の阿見町の霞ヶ浦に面した場所に飛行場が建設され，1922年（大正11）に霞ヶ浦海軍航空隊が置かれます。ここではパイロットを育成するため，陸上機（飛行場から飛び立つタイプの飛行機）と水上機（水面から飛び立つタイプの飛行機）の訓練が行われました。

この霞ヶ浦海軍航空隊の新たな飛行場として建設されたのが，谷田部海軍航空基地です。基地は，現在つくば市南部の農林研究団地がある観音台周辺にあり，芝生の滑走路を持つ飛行場でした。日中戦争が激しさを増し，航空隊増強の必要性が高まっていた1939年（昭和14），霞ヶ浦海軍航空隊から独立した谷田部海軍航空隊がここに置かれ，九三式中間練習機（通称赤とんぼ）というオレンジ色の練習機による訓練が行われました。一時期は200機以上の飛行機が配備されていました。太平洋戦争で日本軍の敗北が続いていた1944年（昭和19），この練習機の部隊は山形県の基地に移転し，その後谷田部海軍航空基地では零式艦上戦闘機（通称零戦）などの戦闘機の訓練が行われました。

谷田部海軍航空隊本部　　谷田部の歴史編纂委員会『谷田部の歴史』1975年より

1945年（昭和20），いよいよ戦局が悪化してアメリカ軍による本土への空襲が激しくなると，谷田部海軍航空基地からも，米軍機を迎え撃つために戦闘機が出撃し，中には撃墜されて戦死する人も出ました。また，基地の航空隊からは特別攻撃隊（特攻隊）が編成され，40名もの人が沖縄諸島などへ出撃し，戦死しました。

終戦後，基地周辺は畑として開墾され，昭和40年代後半には筑波研究学園都市の一部として，農林省（現在の農林水産省）の研究機関が移転されました。農林研究団地建設によって大規模な土地造成が行われたため，当時の施設等はほとんど残っていませんが，基地の中にあった谷田部神社が場所を移されて，常磐自動車道の北側の一角に祭られています。また，航空隊本部の兵舎があった筑波学園病院には，記念碑が建てられています。



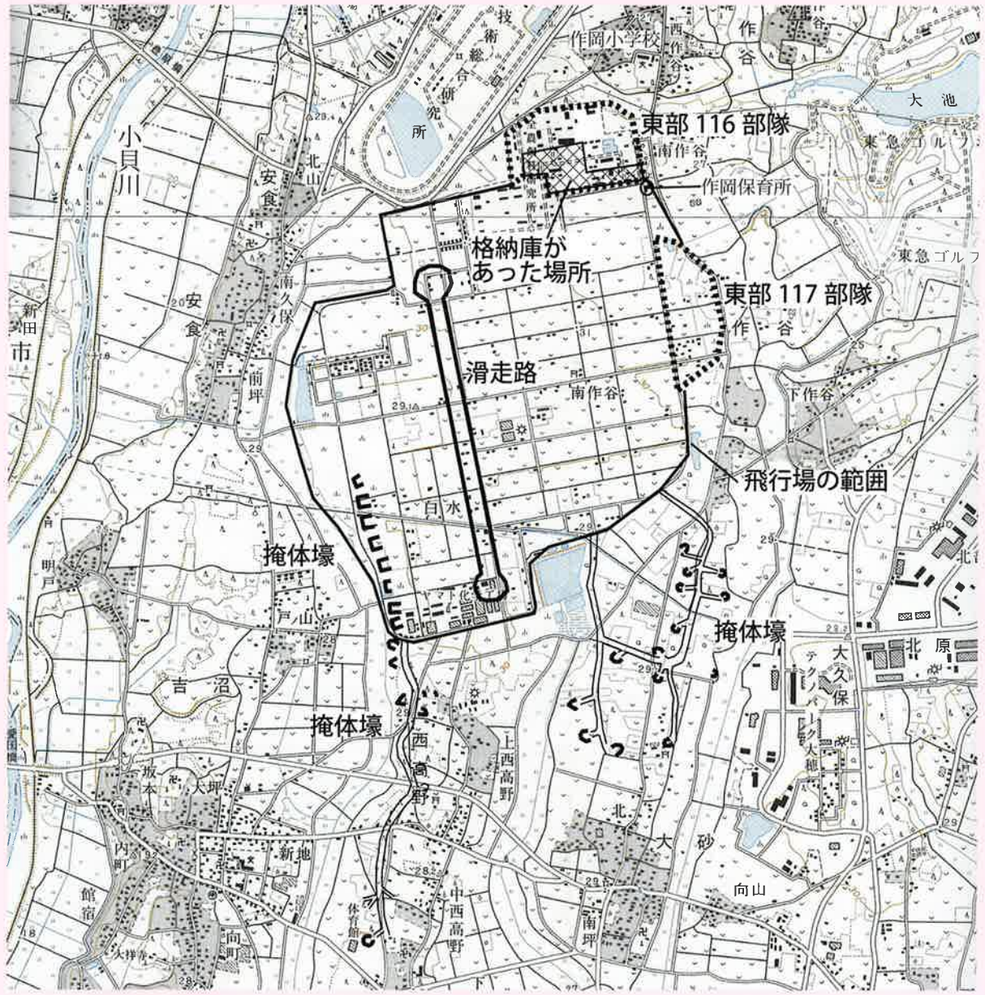
谷田部海軍航空基地の周辺図

※伊藤純郎『フィールドワーク　茨城県の戦争遺跡』平和文化などをもとに作成
※この地図は，国土地理院長の承認を得て，同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。（承認番号平27情複，第562号）

編集・発行　つくば市教育委員会
茨城県つくば市研究学園一丁目１番地１
印刷：黒田印刷株式会社
発行年：平成27年（2015）

【 西筑波陸軍飛行場 】

日中戦争が泥沼化していた1939年（昭和14），つくば市北西部の安食・作谷・吉沼の境あたりで，陸軍の飛行場の建設が始まりました。昼夜におよぶ工事によって約１年後の1940年（昭和15）に開設されたのが西筑波陸軍飛行場です。はじめの頃は，パラシュートで敵地に降り立って奇襲をしかける落下傘部隊の訓練が行われ，1942年（昭和17）ここで訓練を終えた部隊が当時オランダの領土だったインドネシアの石油基地をのっとる作戦（パレンバン降下作戦）に成功しています。



西筑波陸軍飛行場の周辺図

※この地図は，国土地理院長の承認を得て，同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。（承認番号平27情複，第562号）

かつて見られた掩体壕のあと　大穂町史編纂委員会『大穂町史』1989年より

その後，1943年（昭和18)からはグライダー部隊（東部第116・117部隊と呼ばれた２つの部隊）の訓練が行われるようになりました。グライダー（滑空機）はエンジンが無く，飛行機にロープで引っ張ってもらって敵地の上空まで行き，切り離した後は滑空しながら徐々に高度を落として着陸し，載せていた兵士や物資を目的地まで運ぶ兵器でした。

飛行場には正門や指令室，格納庫のほか，掩体壕という，飛行機を空襲から守るために土を盛って造った格納庫があり，爆撃機の訓練も行われました。旧吉沼村（吉沼，大砂，西高野，上里）の各所にはグライダー部隊の兵士たちが宿泊し，部隊で働く人が地元からも雇われたため，一帯は一時軍事色におおわれました。

1944年（昭和19）グライダー部隊は，フィリピンでの作戦へと向かいました。しかし，途中で乗っていた輸送船がアメリカ軍の攻撃によって沈没させられ，またフィリピンまでたどり着いた兵士たちも激しい地上戦の中で命を落とすなど，壊滅的な被害を受けました。部隊に所属していた詩人竹内浩三もフィリピンでの戦いの最中23歳の若さで命を落としています。1945年（昭和20）には，特攻作戦に向けて西筑波陸軍飛行場を飛び立った爆撃機が離陸直後に大砂の地に墜落し，乗組員12名全員が亡くなる事故が起きています。墜落地点には，現在慰霊碑が立っています。

戦後，飛行場一帯には長野県からの開拓団が入植し，畑として開墾されました。現在は芝畑や住宅地，研究所が広がるため，飛行場の面影はほとんど残っていませんが，滑走路だった場所が真っすぐな道路になっていたり，作岡保育所の脇に「陸軍挺進滑空飛行第１戦隊発祥之地記念碑」が立っていたりします。